

平成29年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成29年4月28日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3663 URL http://www.artspark.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野崎 慎也
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 伊藤 賢 (TEL) 03-6820-9590
 四半期報告書提出予定日 平成29年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第1四半期の連結業績(平成29年1月1日~平成29年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第1四半期	840	△22.4	140	△18.9	133	△18.7	127	△3.7
28年12月期第1四半期	1,083	7.4	173	262.1	163	359.1	132	669.2

(注) 包括利益 29年12月期第1四半期 128百万円(△5.6%) 28年12月期第1四半期 136百万円(655.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第1四半期	18.79	18.29
28年12月期第1四半期	19.56	18.90

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年12月期第1四半期	3,733	2,909	77.5
28年12月期	3,699	2,798	75.2

(参考) 自己資本 29年12月期第1四半期 2,893百万円 28年12月期 2,781百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
29年12月期	—	—	—	—	—
29年12月期(予想)	—	0.00	—	4.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日~平成29年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,652	△26.8	143	△68.7	133	△69.1	110	△70.2	16.22
通期	3,482	△9.2	375	△25.1	353	△26.0	297	△11.9	43.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年12月期1Q	6,782,120株	28年12月期	6,779,120株
② 期末自己株式数	29年12月期1Q	3,130株	28年12月期	3,125株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年12月期1Q	6,777,569株	28年12月期1Q	6,756,326株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や設備投資に持ち直しの動きが見られ、雇用情勢も改善傾向が続き、緩やかな回復基調で推移しました。一方、米国では経済指標に堅調さが見られるものの、新大統領による政策動向等の不確実性や、中国を始めとするアジア新興国等の経済減速等もあり、依然として景気の先行きは不透明な状況となっております。

当社グループは、デジタルによるコンテンツの創作から利用・活用に至るまでの諸活動を、トータルに支援できる環境の提供を経営理念に掲げ、事業を推進しております。

当連結会計年度におきましては、ソフトウェアIPを核とした経営に重点を置き、開発リソースの戦略的配置等、経営効率向上に注力しております。

その結果、当社グループの第1四半期連結累計期間の売上高は840,691千円（前年同期比22.4%減）、営業利益は140,427千円（前年同期比18.9%減）となりました。

また、経常損益につきましては、支払利息1,259千円、為替差損4,143千円を計上したこと等により、133,037千円の経常利益（前年同期比18.7%減）となりました。純損益につきましては、税金費用を控除したことにより、127,369千円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期比3.7%減）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、当社グループの事業展開、経営資源の配分の決定及び業績評価の方法を実態に即して見直したことにより、報告セグメントの区分を変更しております。従来の「コンテンツソリューション事業」、「クリエイターサポート事業」、「UI/UX事業」の3報告セグメントの区分について、「コンテンツソリューション事業」を「クリエイターサポート事業」に含めることとし、「クリエイターサポート事業」と「UI/UX事業」の2報告セグメント体制へ変更しました。以下の前年同期比較につきましては、変更後のセグメント区分に組替えた数値で記載しております。

<クリエイターサポート事業>

当第1四半期連結累計期間では、マンガ・イラスト・アニメ制作ソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT EX」と、株式会社スタジオジブリで長年使われてきた、株式会社ドワンゴがオープンソースで公開しているアニメーション制作ソフトウェア「OpenToonz」との連携が可能になりました。

インターネットを通じて、イラスト、マンガ、アニメ、小説を制作するクリエイターの創作活動をトータルに支援するwebサイト「CLIP STUDIO」においては、平成29年3月末時点の登録者数は81万人となっております。

また、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」が、コマ作品の縦スクロール閲覧に対応し、国内電子書籍市場においてトップクラスの利用者数を誇る株式会社アマタスの電子書籍配信サービス「めちゃコミック」で提供が開始されました。

以上の結果、売上高は616,083千円（前年同期比12.4%増）、営業利益は135,349千円（前年同期比69.9%増）となりました。

<UI/UX事業>

UI/UX事業では、自動車（四輪・二輪）関連分野を筆頭に、HMIの基盤であるUIオーサリングソフトウェア群「exbeans UI Conductor」（エクスビーンズユーアイコンダクター）を始めとする自社IP製品の開発と販売に注力しております。

当第1四半期連結累計期間では、新たに開発した移動体向けの車両情報伝達ソフトウェア「exbeans VI Transfer」の提供を開始いたしました。

また、東京ビッグサイトで開催された、企業向けの自動車次世代技術展「オートモーティブワールド2017」の「第5回コネクティッド・カーEXPO」に出展し、自動車業界における「Tier-1」（一次サプライヤー）メーカーとして、自社IP製品を核とするビジネス創出を推進いたしました。

以上の結果、売上高は247,609千円（前年同期比54.2%減）、営業損益は10,084千円の営業損失（前年同期は83,709千円の営業利益）となりました。

なお、本セグメントにおける前第1四半期連結累計期間の売上高540,382千円につきましては、前第3四半期累計期間に株式を売却した孫会社株式会社エイチアイ関西の売上高226,493千円が含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて33,616千円増加し3,733,301千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が60,405千円、ソフトウェアが97,277千円減少した一方で、売掛金が64,910千円、仕掛品が12,090千円、ソフトウェア仮勘定が89,877千円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて77,197千円減少し824,268千円となりました。この主な要因は、長期借入金が44,040千円増加した一方で短期借入金が108,331千円、未払法人税等が12,915千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて110,814千円増加し2,909,032千円となりました。この主な要因は、資本金が2,211千円、資本剰余金が2,211千円、利益剰余金が107,041千円増加したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、77.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の連結業績予想につきましては、平成29年2月12日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

1. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,152,234	2,091,829
売掛金	259,294	324,205
製品	4,333	3,036
仕掛品	3,894	15,985
原材料及び貯蔵品	16,660	26,469
その他	107,154	117,809
貸倒引当金	△1,432	△3,203
流動資産合計	2,542,140	2,576,131
固定資産		
有形固定資産		
建物	66,689	68,042
減価償却累計額	△42,564	△43,495
建物(純額)	24,124	24,547
工具、器具及び備品	205,415	215,946
減価償却累計額	△179,534	△179,102
工具、器具及び備品(純額)	25,881	36,844
車両運搬具	—	3,924
減価償却累計額	—	△326
車両運搬具(純額)	—	3,597
建設仮勘定	6,029	—
有形固定資産合計	56,035	64,989
無形固定資産		
ソフトウェア	857,312	760,034
ソフトウェア仮勘定	22,430	112,307
その他	32,163	31,522
無形固定資産合計	911,906	903,865
投資その他の資産		
投資有価証券	58,517	59,896
敷金及び保証金	111,114	110,762
その他	19,361	17,656
投資その他の資産合計	188,993	188,315
固定資産合計	1,156,935	1,157,170
繰延資産	608	—
資産合計	3,699,684	3,733,301

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	68,135	77,245
短期借入金	306,690	198,359
1年内返済予定の長期借入金	50,639	83,584
未払法人税等	27,435	14,519
返品調整引当金	1,281	1,119
賞与引当金	69,830	75,980
その他	232,126	171,460
流動負債合計	756,137	622,268
固定負債		
長期借入金	36,372	80,412
役員退職慰労引当金	—	8,110
退職給付に係る負債	108,085	112,226
繰延税金負債	871	1,251
固定負債合計	145,328	202,000
負債合計	901,466	824,268
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,056,688	1,058,899
資本剰余金	535,815	538,026
利益剰余金	1,190,994	1,298,035
自己株式	△2,946	△2,954
株主資本合計	2,780,551	2,892,007
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	796	1,795
その他の包括利益累計額合計	796	1,795
新株予約権	16,870	15,229
純資産合計	2,798,218	2,909,032
負債純資産合計	3,699,684	3,733,301

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
売上高	1,083,284	840,691
売上原価	663,524	421,126
売上総利益	419,760	419,565
返品調整引当金戻入額	2,305	1,281
返品調整引当金繰入額	2,119	1,119
差引売上総利益	419,945	419,727
販売費及び一般管理費	246,717	279,299
営業利益	173,228	140,427
営業外収益		
受取利息	140	26
受取配当金	—	6
その他	97	9
営業外収益合計	238	42
営業外費用		
支払利息	1,628	1,259
為替差損	6,379	4,143
その他	1,914	2,029
営業外費用合計	9,922	7,432
経常利益	163,544	133,037
特別利益		
新株予約権戻入益	101	—
特別利益合計	101	—
税金等調整前四半期純利益	163,646	133,037
法人税等	27,648	5,668
四半期純利益	135,997	127,369
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,801	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	132,196	127,369

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)
四半期純利益	135,997	127,369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56	998
その他の包括利益合計	56	998
四半期包括利益	136,054	128,368
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	132,252	128,368
非支配株主に係る四半期包括利益	3,801	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	542,902	540,382	1,083,284	—	1,083,284
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	5,088	—	5,088	△5,088	—
計	547,990	540,382	1,088,372	△5,088	1,083,284
セグメント利益	79,681	83,709	163,391	9,837	173,228

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、社内業績管理区分の見直しを行った結果、アプリケーション事業とUI/UX事業を集約し、UI/UX事業として表示する方法に変更しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	593,082	247,609	840,691	—	840,691
セグメント間の内部 売上高又は振替 高	23,001	—	23,001	△23,001	—
計	616,083	247,609	863,693	△23,001	840,691
セグメント利益	135,349	△10,084	125,265	15,162	140,427

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結累計期間より、当社グループの事業展開、経営資源の配分の決定及び業績評価の方法を実態に即して見直したことにより、報告セグメントの区分を変更しております。従来の「コンテンツソリューション事業」、「クリエイターサポート事業」、「UI/UX事業」の3報告セグメントの区分について、「コンテンツソリューション事業」を「クリエイターサポート事業」に含めることとし、「クリエイターサポート事業」と「UI/UX事業」の2報告セグメント体制へ変更しました。なお、前第1四半期連結累計期間につきましては、変更後のセグメント区分に組替えた数値で記載しております。